



澁谷本町学園だより

令和2年7月6日発行 NO.4

渋谷区立澁谷本町学園

校長 斉藤 茂好

TEL 3373-3201

★HPアドレス★

<http://www.fureai-cloud.jp/shg2012>

学ぶ喜び

校長 斉藤 茂好

家庭・学校の連携ということが至るところで語られていますが、お互いを結び付ける接点に課題があると日頃から感じています。最大の原因は、情報を共有できず、結果として同じ方向に向かえていないということです。

学校も家庭も、自分はこのことができるが、このことはできていない、あなたならできると思うがやってもらえないか。そんなコミュニケーションができることがスタートです。しかし、双方ともに、できているという情報しか発信しないので、手をつなぐ隙間が見つかりづらいということです。

できないことを自発的に見せ合わない限り、連携が進むことはありません。限界を弁(わきま)える余裕が求められます。そんな中、必要の重要度から言えば、とてもポイントが高いにもかかわらず、きっとできていない、きっと不十分なんだろうと想像されるのが家庭学習です。

宿題は学校の学習の延長です。家庭でなければできない家庭学習とは言いがたいものです。では、家庭では何をすればいいのでしょうか。学ぶということの最も大事なことは、「なに」という疑問です。その後に、「なぜ」、「どうして」という疑問が続いていきます。疑問をもつことは、知りたいという欲求を育て、学ぶ意欲を高めます。知る喜び、学ぶ喜びは、疑問をもつという下ごしらえによってつくり上げることができます。しなさいと言われてする学びからは、分かったという感動は生まれません。

数学の勉強で、小数を習います。半分は0.5となります。このときの点を小数点といいます。分数を習います。0.5=1/2です。このときの「/」は何と言うのでしょうか。疑問が生まれました。学校で先生に聞いてみようと思いが生まれます。答えは括線(かっせん)といいます。まず疑問をもって、次に答えが分かると、そうなんだと少しうれしくなります。

括弧という言葉がありますが、弧で括(くく)るということです。弧は曲がっていますから、括弧は周りから内側を守るような機能を発揮します。括線とは線で括(くく)ることです。分子の1と分母の2、2つの違った意味の数字を線で括(くく)っているのです。真っすぐな線ですから、どちらにも肩入れせずに、両方を大切にしています。線は線引きするということのように違ったものを分けするという機能があります。しかし同時に結び付けるという機能ももっています。7月19日を、7/19と表記するような場合です。そうかと解決できたらうれしくなります。

学力は自ら付けることが基本です。家庭での暮らしの中には、たくさんの疑問が埋まっています。知に対する疑問と興味を日常生活の中で掘り起こしてください。子供の疑問に答えられたら、一流の学者になれると言われることがあります。子供が疑問をもつことを支えること、身近にある疑問を見つける力を育てることが、家庭における学習のポイントであると思っています。疑問があるから学びが楽しくなる、その導きが考える力を育てることになると知ってもらえたら、幸いなのですが・・・。

7月の行事予定

月	火	水	木	金	土/日
6日	7日	8日 進路説明会(9)	9日 到達度テスト(中)	10日 委員会活動(中) B時程(中)	11日 12日
13日 5時間授業	14日	15日	16日	17日	18日 土曜授業日 19日
20日 40分5時間授業 ・全校個人面談	21日 40分5時間授業 ・全校個人面談	22日 40分5時間授業 ・全校個人面談	23日 海の日	24日 スポーツの日	25日 26日
27日 40分5時間授業 ・全校個人面談	28日 40分5時間授業 ・全校個人面談	29日 40分5時間授業 ・全校個人面談 PTA 自転車教室	30日 40分5時間授業 ・全校個人面談	31日 全校朝礼 40分5時間授業 安全指導日	
<p>★20日から31日は、全校13時頃の下校となります。★18日の土曜授業日は、公開ではありません。 ★8月1日から8月30日まで、夏季休業日となります。</p>					

*** 7月の生活目標 ***

「元気に学校生活を送ろう」

生活指導部 渡辺 隆嗣

新しい学年に進級し、3か月がたちました。今月は一斉登校が始まり、久しぶりに会う友達と楽しく学習に取り組んでいます。

さて、7月に入り、夏休みまで残り4週間となりました。今月の月目標は「元気に学校生活を送ろう」です。休校期間や分散登校が続き、一斉登校になってからも「あくびをしながら登校する子」「すぐに疲れたという子」「授業に集中せず、ぼーっとしている子」など、学校生活の中でも子供たちの心と体の変調が話題になっています。

- 規則正しい生活
- バランスのよい食事
- 十分な睡眠
- 適度な運動

など、子供たちの健やかな育ちのために生活習慣を見直していくことが必要です。

また、新しい学級での生活をスタートさせた子供たちの心のケアも重要です。学習や進路への不安を抱いたり、友達との関係で悩んだり子供たちの心は複雑に変化します。ご家庭でもお子さんと学校生活について話していただいたり、学習や生活の計画を一緒に考えたりしてみてください。楽しい充実した夏休みの計画をご家庭で一緒に立ててみるのもいいですね。

ホップ ステップ ジャンプ

・ ・ 子供が生き生き活動するために ・ ・

特別支援教育コーディネーター 長嶋 幸恵

ようやく一斉登校になりました。子供たちは、一生懸命授業に取り組んだり、休み時間に友達と楽しく関わったりして、学校生活に意欲的に取り組む姿が見られます。しかし、中には『ちょっと勉強が苦手だなあ。』『頑張っているのに、うまくいかないなあ。』『友達とうまく関わるのが苦手だなあ。』『なんだか、学校に行きたくないなあ。』などと感じる子供もいます。その他にも、例えば・・・

- ・黒板の文字をノートに写すのが苦手である。
- ・文章がスムーズに読めない。あるいは読んでいるところを見失う。
- ・集団の中で話をうまく聞きとれない。
- ・落ち着いて座ってられない。じっとしてられない。
- ・手先が不器用である。
- ・いろいろな音が気になって集中できない。
- ・思いつくままにしゃべってしまう。
- ・整理整頓ができない。
- ・コミュニケーションがうまくとれない。
- ・忘れ物が極端に多い。

そのような時には、ちょっとサポートをしてあげることで、ぐんと学校が楽しくなることがあります。そのちょっとしたコツをこの「ホップ・ステップ・ジャンプ」のコーナーで、毎月お知らせをしていきます。今年度もぜひお読みください。